『報徳のおしえ』とともに

全国報徳サミット筑西市大会

二宮尊徳7代目子孫 中桐万里子氏講演より（その4）

前回は広報とよころ6月号に掲載

中桐万里子氏 講演

父母の根源は天地令命にあり、身体の根源は、父母の生育にあり、云々かんぬんと。……報徳訓

これは一体何を意味するのか。私たちは必ず誰かと、そしてどこかとつながっているという証しだと、私たちが生きているのは、もちろん両親がいて生んでくれたからでしょう。でもその両親をずっとたどったら、その人たちみんな自然から命をもらっている。作物を、あるいは水を、様々なものを体に吸収することで命をつないでいる。つまり私たちの命は、まさに天地としっかりつながっていると、わかるのじゃないかと。あるいは体があるというのも、やはり父母が一生懸命育ててきたと。

何にもできない自分だった。何にも持たない自分だったのに、なぜ今の体があるのか。それはまさに誰かが育み、育て、愛し、抱きしめてくれた。そのプロセスによるものじゃないだろうかと。

様々なものにもう一度目を開けてよく見る。そして近くだけを見ずに、もう少し引いて、始まりの場所を思ってみる。私たちは本当にたくさんのものとつながっている。そのつながりを確認すること。そこで感動や幸福感や勇気を得ること、それがすごく大事なのだと。

でも本当に大事なのは最後の一行なのです。そのつながりを感じるからこそ、私たちは**「年々歳々報徳を忘るべからず」**つまり、自分は受け手で終わるのではなく、ちゃんと仕事をする者。踊り出す者。主役になる者。生み出す者。そうやって自分の舞台でどう踊れるか、その恩返しを頑張って考えようじゃないかと。その一言に集約していくわけです。

つまり、それらは私たちの心の目をもう一度開き、様々に眠る徳、現実、多くのものたちとのつながりに気づいていくこと。それこそが、まさに「心の田んぼの耕し」と金次郎が呼んだ**心田の開拓**ということになるわけです。

疲れ果てた私たちが、もう一度心をふかふかにする。いろいろなものとの感動的な出会いを豊かにする。そのことを通してこそ最後の一節、つまり田畑に出ていこうとする。まちを、自分の世界を、現場を、少しでももう一歩良くしようと皆が踊りだす。磨き合う。そのようなことが起これば、理想的なのではないかと。

金次郎は言います。人間一人ひとり、それはまるで一粒の種みたいなものだと。小さな小さな種みたいなもの、それが人間ということだと。赤い花になるものもあれば、白い花になるものもある。毎年花を咲かせるものもあれば、三年に一度しか花を咲かせないようなものだってある。夏に咲くものも、冬に咲くものも様々な可能性がある。そんな大事な一粒の種を持って私たちがいる。では一体この種が花を咲かせるには、実をつけるにはどうしたらいいと思うかというのです。その小さな一粒の種、大事に大事にそれをとって箱の中に入れておいたらどうなるか。一生、一粒のままでしょうと。まったく身動きもせず、一生、一粒のまんま、そのまんまなんです。

じゃ一体この種が花を咲かせるには、簡単です。土にまくということです。大地にまかなければ、花は咲かない。私たちは、自分という小さな殻に閉じこもっているのではなくて、土にまかれる。自分とは違う誰かと出会っていく。土に出会ったとき、種が一番最初にやること。それは、自分を傷つけるということをするのです。自分を傷つけなかったら、根っこが出ないからです。自分を傷つけて根っこを出します。そして、その根っこが大地の養分を吸って、種は小さな芽を出していく。そしてある時、土から上へ出て芽吹いていく。そして花になっていく。

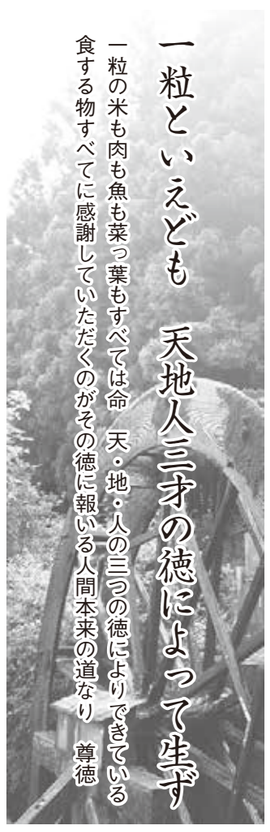
その花はどうなるのか。それらは時を経て、万倍の種になる。万倍の自分になるでしょうと言うのです。

つまり小さな一粒の種は万倍のものとなり、生産性を上げて、そして再び帰っていく。金次郎はこの話をして、様々なものとのかかわりの大切さを語るわけです。

この地にどれほどの人がどんな思いを注いできたのか。実のところ私たちはほとんど知りません。だけど、その大地が確かに私たちを育てている。私たちはそういうたくさんの人たちとつながり、かかわってここにある。

私たちは忙しくしていると、自分が根差しているその土を忘れるのかもしれない。足元にある根っこを忘れるのかもしれない。花が咲かない、風が冷たい、陽が強すぎると、そんなことばかりに思いが行ってしまうのかもしれない。

でもまずは金次郎のごとく心田、心の田んぼ、足元、土、そして根っこを耕していくこと。その確認こそが、私たちが様々な境遇のなかで、もう一歩先へと向かおう、あるいは田畑を実らせようと、その思いに向かっていく大事な始まりの場所なのではないかと。……（続く）



一粒といえども　天地人三才の徳によって生ず

一粒の米も肉も魚も菜っ葉もすべては命　天・地・人の三つの徳によりできている
食する物すべてに感謝していただくのがその徳に報いる人間本来の道なり　尊徳

問合せ先　教育課社会教育係　☎（579）5801

Let's ジョシュの英語 Study English From Josh

今月のポイント This month's topic

Assistant Language Teacher　Josh Ullery
外国語指導助手【ＡＬＴ】　アレリー　ジョシュ

Ask for directions

direction … 方角・方向・方面
方角を尋ねる→道を尋ねる
キーワードと合わせてみてみましょう。

Asking for directions　/　道を尋ねてみましょう。

■ Excuse Me. Do you have a moment?
すみません。少しお時間ありますか。

□ Yes,sure what's up? Are you lost?
はい、いいですよ。迷っていますか?

■ Yes, I am lost. Can you tell me where Takashimaya is?
はい、すこし迷っています。タカシマヤがどこにあるか教えてもらえますか。

□ If you go straight here, you can turn right at the first stoplight. Then, you will see it on your left side.
ここを真っ直ぐ行くと、最初の信号で右に曲がってください。すると左側に見えますよ。

KEY WORDS

Let's take a look at some words from this simple Japanese conversation:
以下の日本語から、会話文にあるキーワードを見つけて使ってみましょう。

すみません - excuse me
ちょっと - a little
どこ - where
最初 - first
真っ直ぐ - straight
信号 - stop light
右 - right ／左 - left

豊頃町公共ポイントを１００ポイント進呈

献血にご協力ください

日　　程　８月２１日（金）
実施場所　豊頃町農協前　10：00～11：30
役　　場　　前　13：00～16：00

献血にご協力いただける方

種　別	年　齢	体　重	献血間隔	年間総採血量
200ml 献血	16 歳～ 69 歳	男性　45kg 以上 女性　40kg 以上	4 週間後に新たに献血可能	男性　1,200ml 以内 女性　800ml 以内
400ml 献血	男性　17 歳～ 69 歳 女性　18 歳～ 69 歳	男女とも 50kg 以上	男性は 12 週間後、女性は 16 週間後に新たに献血可能	

・65歳以上から69歳の方は、60歳から64歳の間に献血されたことのある方に限ります。
・安全性の高い血液を提供するため、400ml献血を推進しています。
・その他ご不明な点は、献血受付問診時にご相談ください。

◆ 新型コロナウイルス感染症に対して徹底した安全対策をしています

安全な献血を行うために、①スタッフの健康チェック②スタッフの手指消毒③献血会場の徹底した消毒を実施しています。また、来場者へ体温測定、手指消毒、マスクの着用をお願いしています。

◆ 輸血用血液を必要としています

新型コロナウイルスにより延期されていた手術等の再開が予定されているため、輸血用血液が今まで以上に必要になります。また、血液は長期間保存できないため、輸血用血液の確保が必要です。ご協力をお願いします。

詳しくは・・・【お問合せ先】保健センター　☎（５７４）３１４１